

No. 126
2018/11/30



OPEN オープンユニオン 岐阜大学職員組合ニュース UNION



岐阜大学職員組合発行

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
Tel. 内線 9552 Fax 058-230-1118
E-mail: kumiai@gifu-u.ac.jp
HomePage: 岐阜大学職員組合 (検索)

職員組合中央執行委員会は学内合意に基づく民主的な運営を求める立場から、以下のよ
うな声明を採択しましたので、お知らせします。

2018年11月22日

声 明

岐阜大学職員組合は、職員の労働条件を守る役割に加え、岐阜大学の基本責務である教
育・研究・医療を発展させるという役割をかねて行っています。そのためには、大学の民主的
な運営、および、教育・研究・医療活動を担う構成員の意向を尊重する運営が重要である
と考えています。学長によるリーダーシップも、このような運営の下で、発揮されるべき
ものと考えています。

現在、地域科学部を廃止し経営学部を設置するという方針が学長によって提案され、年
内にも方針決定が行われようとしています。一方、その当事者である地域科学部では、そ
の構成員（教職員、学生、院生）の多くから強い反対の意思表示が行われています。10
月23日には岐阜大学職員組合地域科学部支部が特別決議『「新学部の設置に伴う地域科
学部の再編整備」＝地域科学部廃止に反対する』を採択し、また、地域科学部学生・院生
による「地域科学部の廃止に反対する署名」の運動が行われています。

経営学部設置案は、もともと地域科学部とは別の新学部として構想されたものであるに
も関わらず、今年3月と5月の文部科学省との意見交換を受けて、急遽、「地域科学部
を廃止し経営学部を設置する」という内容に転換されたものです。そして、現在、地域科
学部の構成員との合意もないままに、この案が決められようとしています。

岐阜大学職員組合中央執行委員会は、学部廃止という、教育・研究条件のみならず、教
職員の労働条件にも重大な影響をもたらすような改革案が、当該学部構成員との合意もな
いまま決定されようとしていることについて、下記の見解を表明するものです。

記

学部廃止をふくむような重大な改革案が、当該学部構成員との合意なしに決定される
ことに反対します。

岐阜大学職員組合中央執行委員会

全大教合同地区別単組代表者会議(中部・近畿地区)報告

10月20日京都で開催されました。中部地区、近畿地区から13大学の組合が参加し、各大学の状況、組合の課題などを交流しながら、秋から冬にかけての取り組みについて議論しました。従来の単組代表者会議では、全大教中央執行委員会からの報告・提案のあとに質疑・交流をするという形式でしたが、今回は各大学からの報告を中心に、相互に意見を交換するという新しい形で進められました。

ほとんどの大学が共通に取り上げたのが、「非常勤職員の5年雇止め・無期転換」問題でした。「非常勤のままの無期化」と「正規職員化」の2段階での対応を要求（大阪府立大）や「クーリングオフ制度」の撤廃（静大）、「5年条項」の撤廃（京大）などに取り組んでいること、「期限付き職員の無期化ルール」が教育研究評議会で決定されたこと（名大）などが紹介されました。名大では従来より「公募による雇用継続」が可能とされていましたが、組合の運動によって、新たなルールが正式決定されました。ひじょうに参考になる内容だと思います。

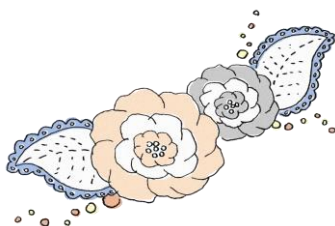
また、財政状況が厳しくなる中で人事・昇格が停滞（停止）している状況も共通課題として報告されました。岐大から、ポイント単価の見直しによる「教員人事基本計画」について報告しました。年俸制（「年俸制を踏み絵に」（大阪教育大））、ポイント制（「ポイント制への移行と偏りの是正」（富大））をめぐる取り組み、裁量労働制については、長期間労働が社会問題化するなか、労働時間管理が強化され「出退勤時間の把握」が今後行われること（大阪府立大）などが報告されました。

組合員を増やす活動も共通課題として取り上げられました。「仲間を増やす秘伝の書」（組合員勧誘マニュアル）、「年間カレンダー」（大学の各種のスケジュールが書き込まれ、裏面は「加入書」になっているもの）、WEBサイトに労働相談フォームを作成（京大）、映画観賞会、ビアパーティ（静大）、お昼の教養講座（大教大）、ランチタイムセミナー（愛教大）、芸術文化学部学生にチラシ作成を依頼（富大）、「歴史ハイク」（阪大）など、さまざまな工夫や企画が行われていることが報告されました。

各大学の個別的な課題についても報告され、国公立大学の多様な姿を知ることができました。愛教大からは「博士課程（静大との共同課程）＋（教職大学院120＋修士課程30）」からなる大学院改革プラン、福井大は「包括要求」（要求事項26項目）を掲げて団体交渉に取り組んでいること（職種ごとに要求を明確化）、富大では「学長候補者への公開質問状と意向投票への取り組み、京大から「立て看板強制撤去」問題が報告されました。

岐阜大学からは、「教員人事基本計画」に加えて、「名大との法人統合」、「地域科学部廃止＋経営学部設置」について、教職員の労働条件に大きく影響する重要課題が学長のトップダウンで進められようとしている現状について報告しました。法人統合に関して、各大学から意見が出され、法人が統合されても両大学の自律的運営が可能とする岐阜大学長の説明が「長期的には成り立たないであろう」という意見が多く出されました。この問題をめぐって、名大から出席した書記長さんと組合レベルで交流会を開催することを申し合わせました（その後、12月5日に行うことが決まっています。）

中央執行委員長 新村 昌治



11月8日付で、「インフルエンザ予防接種への補助の継続を求める要望書」を提出しました。

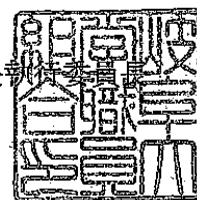
平成30年11月8日

岐阜大学長 森脇久隆殿

インフルエンザ予防接種への補助の継続を求める要望書

岐阜大学職員組合中央執行委員長

新村昌治



岐阜大学は、従来から、岐阜大学教職員が受けるインフルエンザ予防接種に対して補助を行ってきました。この補助は、人事院勧告準拠の方針に基づいて賃下げが行われた際に、それを緩和する趣旨で導入された経緯があり、従前通り、今後も継続していただけるものと考えております。この補助は、岐阜大学教職員の福利厚生上、大きな役割を果たしているだけでなく、多くの学生が集う教育・研究・医療の場での、さらに、広く社会におけるインフルエンザの流行を防止し、教育・研究・医療活動、社会活動を支援する役割を果たしています。今年度におきましても、インフルエンザ予防接種への補助を継続していただきますことを要望します。

新4役が森脇学長さんにあいさつにでかけました

10月17日17:30から学長室で、学長、大藤総務理事とお会いし、挨拶をかねて懇談を行いました。懇談の中で、学長からは、岐阜大学の将来について、少子化にともなって厳しい事態が予想されること、法人統合によって岐阜大学の強みがより生かせることになることなどの話がありました。組合からは、人事の停滞がカリキュラムの実施にも悪影響を与えつつあることや技術職員・事務職員への情報提供が不十分になっていることなどを指摘しました。総務理事からは、教員以外の職員への情報発信などで改善できることは改善していくことなどの返答がありました。

岐阜県勤労者球技大会（ボウリング）に参加して

10月12日（金）に岐阜県勤労者福祉協議会主催のボウリング大会の地区予選がマーサボウルで開催され、応用生物科学部支部の細江、加藤、有代、酒向組合員が参加してきました。20チーム以上が参加する盛大な大会となりましたが、その中で岐阜大学チームは3位に入賞することができ、その後行われる県大会への出場権を獲得することができました。



残念ながら県大会は出場メンバーの負傷などもあり、出場を断念したのですが、来年以降もさらなる好成績を目指していきたいと思えます。

（応生支部：酒向）

若手職員忘年会のご案内

若手職員忘年会を下記の通り開催します。学部・支部を越えて交流できるよい機会です。今年の締めくくりに、若手のみなさま（若手と交流したいみなさまも）、ぜひご参加ください。

日時：12月14日（金）18：30～

場所：「壁の壁」岐阜店

岐阜県岐阜市清住町2-20

TEL：050-5280-7725

<https://www.hotpepper.jp/strJ000029671/>

会費：3000円 補助については、支部役員にお問い合わせください。

申込締切：12月7日（金）

参加申込は、組合事務室の柴田（shibata@gifunion.sakura.ne.jp）までお願いします。